

安全な海の交通を

北日本を代表する物流拠点である苫小牧港。たくさんの船が往来するため、ルールを守った運航が事故を防ぎます

北海道唯一の信号所



苫小牧港は、人工掘り込み式の地形であることや、大型のRORO船やフェリーが多数運航していることから、2カ所に信号を設置しています（苫小牧信号所と勇払信号所）。信号では、「入航してよい」をI（イン）、「出航してよい」をO（アウト）などで表示し、スムーズな運航を守っています。

タグボートで安心な着岸



接触事故などが起こりやすい岸付近では、タグボートを利用します。タグボートとは、狭い港内で接触事故などを起こさないように大型船を押ししたり引いたりするボートのことです。安全・確実に着岸や離岸できるように、ワイヤーなどでけん引したり、タグボートに古タイヤなどをつけて、直接押ししたりもします。

海の安全を守る、海上保安署職員にインタビューしました

2年前に苫小牧に来た時、本当に大きな役割を持つ港だと感じました。もしも、ここで事故が起こったら、船が入ることも出ることも不可能になってしまいます。北海道の物流拠点であることを考えると、皆さんの生活に大きな影響を与えてしまいますよね。

北海道では唯一の信号所があるほど、たくさんの船が入り出りする苫小牧港ですので、スムーズな海の交通を守らなければいけません。みなさんの協力を得ながら、これからも責任感と緊張感を持って業務にあたりたいと思います。

海上保安署勤務。安全啓発講習会を開催したり、港湾関連施設のコントロールをするなど、幅広く海の安全を守るための業務に携わる。趣味は釣り。

苫小牧海上保安署 田邊 早人さん



未来へ！
みなと大作戦

苫小牧港開港50周年

海の安全を守るために

詳細 企業立地課 ☎32-6438 苫小牧港管理組合 ☎34-5551

私たちの生活を支える苫小牧港。物流拠点として、漁港として、マリンレジャーのスポットとして、多くの方に親しまれています。今回は、安全に海を利用できるよう、苫小牧港のルールについて紹介します。



安心して海を楽しむために

苫小牧港は、海の幸が豊富な釣りの良港ですが、気象条件などに気をつけなければ、危険がともなう場合があります。命の安全を守るため、ルールを守ってマリンレジャーを楽しみましょう

救難ボランティアの活動をする漁師の方にインタビューしました

海で事故があったとき、海上保安署の方が救出に行きます。しかし、広い海をすばやく調べるために、多くの人手が必要になる場合があります。僕たち漁師は、そんなときのために、ボランティアで救難所を設置しています。海は本当に生き物だと思います。漁に出ていると、急に波や風が変わってしまいます。無理をしないことが命を守るポイントです。

特に、プレジャーボートなどで沖に出るときは、命を守るために、ライフジャケットを絶対に着用して欲しいですね。

漁師歴9年。父とともに、冬はホッキ、夏は刺し網で漁をする。冬の趣味はスノーボード。

苫小牧救難所員 吉田 すすむ 進さん



命を守るためのルール

全国的にマリンレジャーが普及しており、苫小牧でも勇払マリーナで、多くの方がプレジャーボートなどを楽しんでいます。しかし、危険に遭わないように、また、危険に遭っても大丈夫なように、準備することが大切です。海上保安署では、命にかかわる危険が迫ったときのために、大切な3つのルールを決めています。

自己救命策3つの基本

- ① ライフジャケットを着用しよう！
- ② 携帯電話は防水パックで持ち歩こう！
- ③ 海でのもしもは118番に連絡を！

ちょっと気をつけるだけで、すぐにできる3つのルールを守って、マリンレジャーを楽しみましょう！